

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和三年度十一月 入賞句一覧 投句数 六百二十二句

特選



大垣 武直選

パティシエも刑事も通ふ夜学かな

三重県四日市市 後藤 允孝

「夜学」は、夜間に開かれる学校のこと、秋の夜は落ち着いて勉強できることから、秋の季語とされる。さまざま境遇の人が通っているが、中には、洋菓子職人や警察官もいるのだ。立場は異なるが、向学心は同じだ。生涯の友もできるであろう。

呼びかけてみたき雲ありななかまど

愛知県名古屋市 館野 茂子

「ななかまど」は、晩秋になると葉も実も真つ赤に色付き美しい。空を見上げると、いろいろな形をした秋雲が浮かんでいる。作者が呼びかけてみたい雲はどのような形であろうか。人が動物か想像が広がる。赤と白の対比も鮮やかだ。

薄野を抜けて現に戻りけり

東京都新宿区 花澤 ちいこ

「すすき野」を歩いたことがある。行けども行けども芒の中。銀色の光の波、風の戦ぐ音。だんだんと自分を見失うような不安感を覚える。狐に化かされるとは、こんなことかもしれない。ようやく芒が疎らとなり、ふつと我に戻った。現に戻った。

秀逸

村人のごとき案山子や茜空

大垣市 遠藤 加容子

久々に歩む家路や虫の囀

大垣市 長谷川 路山

しんがりの霜けちらして通学路

大垣市 佐藤 すみ子

あれこれと思い出しつつ柿を剥く

大垣市 多賀 英華

嬰あやす幼なき姉の千歳飴

大垣市 早苦 千恵子

書くことは生きてゐること文化の日

奈良県奈良市 やまとなでしこ

芋にのる味噌に味見の指のあと

大垣市 安田 むつこ

朴葉味噌の匂ひ道まで冬隣

三重県三重郡 水野 悦子

牛どもの濡れたる鼻や豊の秋

大垣市 スミノ さくら

教え児の推す本読める夜長かな

大垣市 彩刀 樹人

入選

一般の部

新米の届く最後と言ふメモと

東京都世田谷区

関戸 信治

鈴虫や思いいもいにフェルマータ

大垣市

福岡 篤子

木漏れ日を水に浮かばせ秋うらら

大垣市

松岡 みつ

粧ふ山茶房は広き窓ひとつ

不破郡垂井町

小坂 久美子

遠くにて燃えてをるなり星月夜

大垣市

矢代 由美子

門口の盛塩崩す小夜時雨

大垣市

宮脇 和子

また一戸増える空家や山眠る

大垣市

中山 あや子

文豪の鬣肩の老舗走り蕎麦

養老郡養老町

田中 紫香

広報紙点字で届く文化の日

大垣市

末守 節子

名刹のささくれ魚板秋惜しむ

不破郡垂井町

児玉 信子

もみじ散る泉ひとつを隠すまで

埼玉県鴻巣市

大澤 良州

灌漑の水守ることさぎ一羽

大垣市

辻 シゲ

石露の花飛石どれも角取れて

大垣市

今津 絹代

スマホから届く子のうた敬老日

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

オーボエの大人ぶる音や秋たける

三重県四日市市

井戸 康子

芭蕉忌や古書肆で探す全句集

兵庫県神戸市

岸下 庄二

太つちよの団栗ブンとよくまわり

大阪府東大阪市

森 佳月

石仏と語らふ如く曼殊沙華

瑞穂市

谷 陸海

秋時雨かすれ始めたボールペン

広島県福山市

中常 かつたろー！。

ピストルのおと硝煙のにはひ秋

大阪府箕面市

露口 全速

選者吟

「天下富舞」の高値落札柿の秋

武直

